

出雲探訪 (古代ロマンと水郷都市)



堀地 紀行

HORICHI Noriyuki

国士舘大学教授
(当協会理事・本誌編集委員)

梅雨前の休日、かねてより旅行先にと考えていた松江と出雲大社に出かけた。松江は二度目となるが、大社は初参詣となる。昨年は、伊勢神宮とのダブル遷宮で賑わったが、今年は落ち着いて廻れると踏んだからだ。羽田から空路、米子空港に、そこから松江市内に入り、宍道湖温泉に宿をとった。夕食は地元のもの食すため、サイトで見つけた評判のすし屋さんへ、そこで日本海の幸と、名物の宍道湖のシジミの味噌汁を堪能したが、シジミの味と粒の大きさに大満足した。翌朝は市内からレンタカーで出雲大社へ。

大社の境内入り口に鎮座する大鳥居をくぐると、参拝者を迎えるのは一旦下ってから上る参道で、参拝者の目に、社殿や鳥居の大きさ、参道の長さをスケールアップさせる古代の匠たちの視覚効果を狙った意図が見て取れる。映像などから、大社は大きなメ縄が印象的だが、実際に体感すると社殿の大きさや配置の関係からか、さほどの大きさは感ぜず、むしろ社殿との調和が感じられた(写真1)。古事記に、大国主が国譲りの条件として大きな社殿を望んだとあるが、本殿は六十年に一度、遷宮を行うからか、木造建築として最大級とされる東大寺大仏殿などと比べると、やはり小さい感は否めない(写真2)。

しかし、遺跡調査で境内から発掘された三本の巨木丸太を鉄のタガで一本に纏めた巨大な支柱が、丁

度、田の字の交点の位置に九本見つかり、高さ50メートルにも及ぶ社殿が建てられていた可能性を伝えている(写真3)。

田の字は口の字を四つ組み合わせたと見なせば、四本の支柱は、大国主の次男の建御名方が国譲りに反対し、天照大神の使者に相撲で対抗し、敗れて諏訪に逃げおよび、諏訪湖周辺に諏訪上社(前宮、本宮)、下社(春宮、秋宮)の四宮に祀られている。そして、諏訪の四宮のそれぞれの四隅は、勇猛果敢な祭り知られる、山から切り出された御柱と呼ばれる計16本の柱で守られている。四本の柱は、出雲由来の祭事の形式かもしれない。出雲大社の次は門前出雲そばに舌づつみを打った。旅行中、三度ほどそばを味わったが、どこの店も美味しい。出雲そばのルーツは江戸期に信州松本藩から国替えで入府した松平氏が、藩士や商人とともに伝えたということで、国替えは、日本各地の固有の文化や、慣習を混合させ、拡散させる効果も有していたと解される。参詣を済ませて大社を後にして、日御碕灯台と日御碕神社へ足を延ばした。日御碕は宍道湖、中海を擁する鳥根半島の最西端。つまり地理的には、偏西風や対馬海流に乗った大陸、朝鮮半島からの船が、渡来した地と思えたからである。日御碕神社は、想像するに日の見崎という意味だと解される。別名、



写真1 大メ縄と拝殿



写真2 遷宮された大国主の住まいの本殿



写真3 発掘された出雲の3本組の大柱



写真4 日御碕神社の奥に開けた天然の入り江

日沈み神社と呼ばれ、太陽神の天照を祀った伊勢神宮と相對する。日御碕神社の境内を出て、海の方角に下ると、イメージしていた通りの幅300mほど、奥行き200mほどの小さな天然の良港が開けていた(写真4)。

この入り江が大陸、半島からの来航者を迎い入れた港の一つであったかもしれない。そんな、古代のロマンに浸りながら、二日目の夜の床に就いた。

翌朝は、松江城、そして内堀を小舟でめぐり堀川めぐりを楽しんだ(写真5・6)。

松江城は関ヶ原以降に堀尾氏、京極氏、江戸期に入り長く松平氏が居城とした立派な構えの平山城で、天守閣も江戸期の往時を偲ばせる。宍道湖から豊富な水を引き込んだ内堀は環濠水路を形成し、観光船が楽しい。乗り降り自由の一日チケットとなっている。松江旧市街の歴史地区(旧日銀松江支店や、食事、散策散策エリア)から乗船し、大手門で下船し天守閣を見て、搦め手からまた乗船し、続きを楽しめる。大手門から少し回った武家屋敷界隈では小泉八雲の旧居宅も船上から見て取れる。また、多くの橋が堀に架かるが、船が橋をくぐる際は、船頭さんの合図で船の屋根もたたみ、乗客も船の床にうつ伏せとなる。そのへんも面白く、もちろん堀の周り

の景色も格別で、5月の城の新緑が一段と目を引いた。堀川筋には、本誌に関わりの深いLSのOY氏も青年期を過ごしたという。水辺と緑が松江人の穏やか人柄を育んだことも頷ける。

日本海の幸と古代ロマン、水辺の潤い、しっとりした街のたたずまい。都会にないものを堪能した旅となった。帰途に就く前に、初日に乗ったタクシーの運転手さんの松江は夕日が綺麗なんですといった言葉が、理解できた。西に宍道湖がたたずむ松江市。夕日はもちろん綺麗だが、東も中海が開け、日の出もきっと素晴らしいと想像できる。余談だが、市内のすし屋の若い大将さんは、ゴールデンウィークはお子さんを連れて、東京ディズニーランドに行ってきたそうで、東京の喧騒やターミナルの地下通路の混雑がスリリングだと言っていた。旅は日常との違いを求めるものと再確認した次第である。そしてもう一つ、米子空港は全てANA便、宍道湖西岸の出雲空港は全てJAL便となっているようで、この点も面白い。松江市街は両空港のおおむね中間に位置する。末筆に、松江の著名人は竹内まりやさんと錦織圭さん。世界の最高峰の4大トーナメント、全米オープンテニスでの錦織圭さんの準優勝、心より祝福します。



写真5 松江城の堀川めぐり



写真6 松江城天守閣